

『星陰りて、謀り響く』
PC4 用ハンドアウト

陰謀論者のマードーミステリー

コードネーム: キャロル

ネタバレ防止用ページ

独白。

私は知っている。この世界は、素晴らしい陰謀を中心に回っていることを――陰謀論の牙城『夏音』に妨害されなければ、偉大なる神を招くのは私であることを。

私は犯人ではない。私は夏音のリーダー『フーガ』を殺そうとは考えていたが、私がわざわざ手を汚す必要はない。私はハスター様を招来しなければならないのだ。

キャラクター設定

キャラクター設定

本名	自由
コードネーム	キャロル Carol
年齢	大学院生（26 歳～） 6 年前にロンドの研究室に入った矛盾しない年齢（6 年前に 大学 3 年生以降ないし、社会人経験のある大学院生）。
性別	自由
一人称	自由
容姿	自由
誕生日	自由（おうし座）
血液型	自由
出身地	χ 国 本国 「カラクサウラ」市
職業	大学院生
性格	信心深い。
その他の設定	黄色の印の親子団、最後の生き残り。

黄色の印の親子団が作成した教本

我々が偉大なるハスター様

by 黄色の印の親子団が作成した教本

ハスター様の偉大なることは疑うべくもありません。しかしハスター様を讃える者として、ハスター様が如何にして素晴らしい神であるかを知っておく必要があります。

ハスター様と『クトゥルフ神話』

ハスター様は『クトゥルフ神話』の神として知られています。『クトゥルフ神話』はミウス半島に古くから伝わる神話体系で、港町信仰の神「クトゥルフ」から名付けられています。しかし「クトゥルフ」というなれば大変おぞましい悪臭を放つ巨大タコであり、神話の名を飾るには相応しくないデロデロの生ごみの塊^{かたまり}です。そのため、黄色の印の親子団では御名^{みな}をお借りして「ハスター神話」と呼んでいます。

ハスター神話を深く知る人間は、我々のほかに某タコを信仰する憎^{にく}きハイドラ教団しかいません。耳にしたことがある人間も、創作のネタとしか考えていないでしょう。

ハスター様を信仰する理由

ハスター様を信仰する最大の理由は「それがハスター様だから」に違いありません。しかし、筆舌^{ひつぜつ}に尽くしがたい栄えあるハスター様を描写する愚^{おろ}を犯^{おか}すとこのようになります。

ハスター様は優しく、強力な神です。最古の記録では、ハスター様は羊飼いを見守る心優しき神とされています。そして、ハスター様は我々信者に様々な恩恵を授けてくださいました。

しかし、ハスター様は同時に、不届きものを成敗^{せいばい}するためのお力をお持ちです。例えば、ハスター様のお使い「ビヤーキー」様は、光の500倍の速さで宇宙を駆け巡ります。葬儀^{そうぎ}に蜂蜜酒^{はちみつしゅ}をささげ、49日間喪に服すのも、信者の魂^{たましい}をハスター様のおわしますアルデバランまで、ビヤーキー様がお運びになるからです。

ハスター様の素晴らしさは、セラエノの大図書館を以てしても言葉足らずですが、その片鱗^{へんりん}にすら畏敬^{いけい}の念を抱くばかりでございます。

黄色の印の親子団の使命

我々、黄色の印の親子団の使命は何があるのでしょうか？ ラマ様の教えに従い、日々ハスター様を讃えること以外に、3つ、大切な使命がございます。

天罰～夏音創立

天罰～夏音創立

その晩、キャロルは用事があり、アルデバラン祭に参加できなかった。

どれほど怒られるだろうか。ふるえながら帰ったキャロルを迎えたのはしかし、無数の刺し傷が残る両親の遺骸^{いがい}だった。二人は、金庫を守るように倒れている。この金庫には、「教団の命と思え」と言い聞かされてきた1枚の石板^{おさ}が納められていた。石板には、『ハスター様の招来』と『ハスター様の解放』の呪文が記されている、と教団では伝えられてきた。しかし、古代アコール語が刻まれた碑文を解読できないまま、お招きできないまま死蔵していたのだ。

碑文^{ひぶん}を解読するまで、教団は石板を守り抜かなければならない。しかし、頑丈な扉は強引に破壊され、石板は無情にも持ち去られていた。

残りの教団員も殺されていた。生き残りはキャロル一人だった。

この祭りを^{ないがし}蔑ろにすることは、ハスター様への^{はんぎゃく}叛逆とすら言えます。

すべては手遅れになってから、教本の一文が頭にこだました。これが天罰なのだ。ハスター様のご慈悲^{じひ}を賜^{たま}うには、石板を取返し、ハスター様を招来するしかない。

キャロルには、石板を追う手掛かりが2つあった。

1つは、死体と報道の不自然さだった。

通常、皮膚を切りつけると、傷口はパツクリと開く（^{しかい}哆開）。しかし、キャロルが見た死体の切り傷は閉じていた。これは「切り傷は死後につけられた」、つまり「死因が偽装されていた」ことを意味する。しかし、法医学の初歩知識でわかる矛盾を、報道では「刃物で争った形跡があり、同様のカルト集団との抗争」と報じていた。

さらに詳しく調べてみると、8つの経済推進都市の超高層ビルとウラミワ市のファロス灯台がV字の形をなすことに気が付いた。この一つ一つがハスター様招来のためのモノリスなのだろう。政府は石板を盗み、ハスター様を地球にお呼びするつもりなのだ。

そして今から6年前。もう一つの手がかりを追って、はるばる北西飛び地の国立コウトスミ大学にある民俗学教授（ロンド）の門をたたいた。ロンドは「クトゥルフ神話」とアコール語研究の第一人者として知られていた。

キャロルにはロンドがこの事件に関わっている確証があった。教団員を除けば、石板の存在はこの民俗学教授しか知らないのである。

両親が生きていたころ、ロンドが教団を訪れたことがあった。教団の者すらほとんど見たことのない石板を開示していたのは、両親が「決して口外しない」との誓いを信じたからであった。

しかし、訪れた研究室には石板の痕跡があった。すでに解読完了したのか、本体は政府に返還されていたが、石板に関する断片的な研究メモが、そこかしこから見つかったのだ。

やはり政府が教団を襲い、密告者のロンドに石板解読を依頼したのだろう。誓いを立て、破ったその汚らわしい口で、ロンドはキャロルを歓迎したことになる。

一方で、激情に任せてロンドを殺す場面でもないキャロルは判断した。

キャロルは政府のハスター招来計画を乗っ取るつもりであった。協力ではない。乗っ取りだ。信奉者の、キャロルの両親の血にまみれたその手で、清浄なるハスター様を利用せんする無礼は看過しがたい。しかし、国土を覆う9つのモノリスと、古代アコール語研究の前進を見れば、彼奴らは利用価値があった。

一方、激情に任せてロンドを殺す場面でもないキャロルは判断した。

キャロルは政府のハスター招来計画を乗っ取るつもりであった。協力ではない。乗っ取りだ。信奉者の、キャロルの両親の血にまみれたその手で、清浄なるハスター様を利用せんする無礼は看過しがたい。しかし、国土を覆う9つのモノリスと、古代アコール語研究の前進を見れば、彼奴らは利用価値があった。

とはいえ、とキャロルは臍をかんだ。もう、ここには石板がないのだ。依頼主と思われる政治家へ連絡してみたが、しらばっくれた返事が返ってくるだけだった。

ところが翌年、197年4月のことである。ハスター様のご加護だろうか、政府高官が石板をしょって逃げてきた。元首補佐官のフーガが計画を妨害するため石板を盗み、ロンドを頼って国立コウトスミ大学まで来たのである。

こうして、フーガ、ロンドを中核に、カプリッチオ（フーガの逃亡を助けた部下）、キャロル、アリア（ロンド研所属の大学4年生）を加え、夏音が創立された。

ロンド、キャロルとアリアの3人は、ハスター様を中心とする神話体系を研究した。いわゆる『クトゥルフ神話』である。キャロルは石板を見ようと、その研究的な意義を説いたが、警戒心の強いフーガは決して許さなかった。

したがって、キャロル達の研究というのは、古代アコール語の発音や、黄色の印の親子団の痕跡をもとにしたフィールドワークなどであった。

$\frac{1}{x} \ln(x^2+9) = \frac{1}{x} \ln(x^2+0^2) + \frac{1}{x} \ln(0^2+9)$

「端的に言おう、石板が盗まれた。」

「石板はすでに解読されたはずでは？」

ロンドの解析レポートには「儀式には石板が必要」と記されている。しかし、それだけでは足りないのだと政治家は語った。石板が盗まれる以前から繰り返してきた検証実験は一度も成功していなかったのである。夏音に所属していることを隠しつつ、キャロルは「協力」を申し出た。

199 年 7 月、χ国全体を経済不安が襲った。莫大^{ぼくだい}な遺産があったキャロル自身に大した影響はなかったが、翌年 4 月に修士課程を終えたアリアは脱退した。その後もキャロルは説得を続けたが、フーガ^{けが}が買ってきた汚らしいクトゥルフの彫像^{ちようぞう}を見てあきらめた。むしろフーガに取り入ろうと、「脱退したメンバーとの接触禁止」「メディアを見ると洗脳される」などにも従ったが徒労^{とろう}だった。

「ロンドが襲撃された。11月30日、報復としてウラム市のファロス灯台を破壊する」

両親は、今の自分をどう思っているのだろうか？

9

[illegible]

$\lambda \in \mathbb{R}^n$ ist ein Eigenwert von A , falls es einen Vektor $v \in \mathbb{R}^n$ gibt, so dass $Av = \lambda v$ gilt.

キャロルは12年前、両親が殺されたときに少し法医学を学んだ。その知識から

キャラクターのカード

以下の説明は、実際のカードの説明と異なる場合があります。

昨夜の記録 ???

何を書いてあるか、予想できない。

持ち物 A 検視結果

キャロルは12年前、両親が殺されたときに少し法医学を学んだ。その知識から

- ・刃物の傷は、死後に付けられたものである。
- ・刃物の推定刃渡りは15 cmである。
- ・銃弾は後頭部から側頭部へ抜けた。
- ・死亡推定時刻は00:00~01:30である。

の4点がわかった。カードを見せれば、ほかの人も納得するだろう。

.....それなら、01:55に見たのは一体誰だったんだ？

持ち物 B 黄色の印

ハスター様の信者の証。「反転した松明」のようなデザインである。

このカードを所持する等、過度な注意を払ったプレイヤーは、調査完了時点で追加ハンドアウトを手にする（キャロルを除く）。なお、黄色の印を全体公開してもこの条件は満たさない。

追加ハンドアウトを受け取ったプレイヤーは、本来の目的がねじ曲がり、ハスター様招来・解放に意欲的になるだろう。

切り札 信仰告白

効果: 全体公開時、キャロルはハスター様を讃えるRPをしなくてはならない。以降、全体会議ごとに調査ポイントを1コ獲得する。

（全体会議中に全体公開した場合、その全体会議分の調査ポイントも獲得する。）

カールは、古代アコール語を修得しているため、「石板〈ハスターの招来・解放〉」を閲覧するだけで「呪文〈ハスターの招来・解放〉」を入手することができます。

プレイヤーの目標

プレイヤーの行動を制限するものではなく、ロールプレイの指針となるものです。
追加ハンドアウトにより、変更される場合があります。

フーガ殺害の犯人を推理する 0 点

生存する 4 点

信者を増やす。 各 1 点

ハスター様を招来し、解放する。 8 点
(石板『ハスターの招来・解放』を得る必要がある)

キャロルは、古代アコール語を修得しているため、「石板〈ハスターの招来・解放〉」を閲覧するだけで「呪文〈ハスターの招来・解放〉」を入手することができます。

プレイヤーへのアドバイス

- ・フーガの部屋には金庫があり、石板『ハスターの招来・解放』が入っています。しかし、キャラクターの誰かがその鍵を持っています。その誰かが、石板を手に入れる前にカギを奪いましょう。
- ・石板を先に奪われた場合でも、絶望することはありません。
- ・交渉や「黄色の印」で、協力者を増やしましょう。
- ・ハイドラ教団の人間がいた場合、黄色の印を見てもクトゥルフへの信奉が傾くことはないでしょう。黄色の印を見た相手の様子がおかしい場合、黄色の印をいったん回収したほうがいいでしょう。

キャロル視点の登場人物

キャロル視点の登場人物

陰謀の全貌を知っていたのはフーガ、アリア、ロンド、私だけ。みんないなくなった。

PC1: シンフォニー

文面でのやり取りはあったが、直接会うのは初めてだ。ていねいな物腰の人間だ。

PC2: セレナーデ

初めて会う。何か嫌な雰囲気がする。

PC3: ララバイ

アリアがいた頃から、研究の調査に協力してもらっていた。一見ただの小心者だが、異様な鋭さを感じる時がある。

PC4: キャロル

自分自身。今こそ、ハスター様をお呼びするのだ。

PC5: カプリッチオ

フーガの元部下。夏音の運営がらみで雑用をさせられている。γ国の出身だそう。

NPC: フーガ

元政府高官。経済に詳しかったらしい。『ハスター様の招来・解放』が書かれた石板を所持していたが、ルルイエに脳をむしばまれていたのか、キャロルに見せることはしなかった。この隠れ家にいる間は、書斎の金庫に石板を入れていたはずだ。

NPC: ロンド

国立コウトスミ大学文学部の教授。χ国の考古学・民俗学・言語学の権威で、古代アコール語の解読でも知られる。昔、黄色の印の親子団を訪れて、石板を調べたことがある。教団が滅びた元凶。

NPC: アリア / アリアケ・アオイ

ロンドの研究室での後輩。夏音創立メンバーだったが、200年3月に脱退した。修士論文は「χ国の宇宙人信仰と失伝した呪術性に対する民俗考古学的アプローチ」。

カカロルは、この世界で唯一の、
「被差別階級」の冬族の4つです。黄色の印の親子団を
率いるキャロルの家は夏族でした。

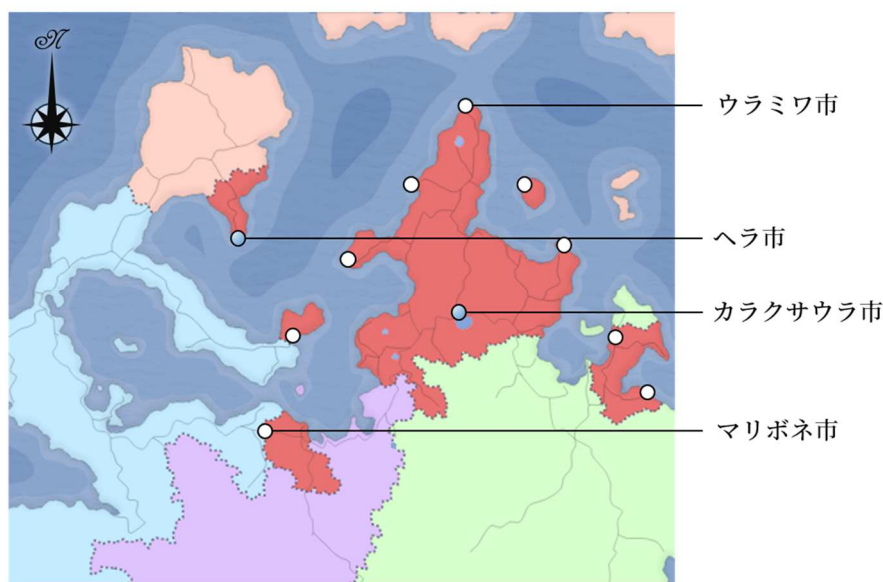
知識・記憶

今までの話の補足です。ざっと目を通し、気になったら確認するといいいでしょう。

χ国

χ国の経済は敗戦後、低迷していたところ、20~30 年前に急激な成長を遂げました。しかし、3 年前の経済不安で再び転落しました。

現在は廃止されていますが、χ国にはかつて階級制度がありました。王族の^{しゅんぞく}春族、貴族の^{かぞく}夏族、平民の^{しゅうぞく}秋族そして、「被差別階級」の^{とうぞく}冬族の4つです。黄色の印の親子団を率いるキャロルの家は夏族でした。



モノリス

白抜きの「○」はハスター招来のためのモノリスを指しています。地図の通り、V字状に並べられた9つのモノリスが、χ国のほぼ全土をおおうように並べられています。

ウラミワ市はファロス灯台が、そのほかの都市は経済推進都市のため超高層ビルがモノリスの役割を果たしています。

ヘラ市

夏音本部や国立コウトスミ大学があります。海はクトゥルフやノーデンスといったハスターに敵対する神々の領域と考えられており、キャロルは陸路で行き来していました。

ハスターはカルコサの封印された神で、風の神とされており、海の神であるクトゥルフと対立しています。

カラクサウラ市

キャロルの出身地で、黄色の印の親子団の本拠地/聖地です。ハスターが封印されているカルコサに由来します。近くにハルモニア湖があります。

マリボネ市

南西飛び地の経済推進都市です。はちみつの生産地で、キャロルはマリボネ市から蜂蜜酒を取り寄せています。

夏音

フーガが設立した秘密結社です。政府によるハスター招来計画を妨害するための組織ですが、ほとんどのメンバーは断片的な陰謀論しか知りません。

5年前、石板を盗み出してきたフーガがロンド研究室に逃げ込んできたことが夏音の始まりです。フーガ、カプリッチオ、ロンドに加え、当時研究室にいたキャロルとアリアが創立メンバーです。

創立の3か月後、どうやって知ったのかアラバイが参加しました。シンフォニーとセレナーデの参加時期は詳しく知りません。

200年3月には、アリアが脱退しています。

ハスターとクトゥルフ神話

ここでは一般的な「クトゥルフ神話」で語られる「ハスター」について解説します。

ハスターはクトゥルフ神話の神です。風の神とされており、海の神であるクトゥルフと対立しています。

ハスターは現在、アルデバランのカルコサという町にあるハリ湖に封印されています。この封印を解くことは人間にはできませんが、一時的にハスターを地球に呼び寄せる（招来）することができます。ハスターの招来は

「V字状に並べられたモノリスの中で」

「アルデバランの昇る冬場に」

「必要な呪文を唱える」

ことでできます。

「ハスターの招来の呪文」で招来されたハスターは日が昇るとともにハリ湖へ戻りますが、「ハスターの解放の呪文」を唱えることで、ハスターは一年中モノリスの中で活動できるようになります。

ハスターの眷属にビヤーキーと呼ばれる、巨大な蜂のような生物がいます。光の速度の 400 倍（本作品では 500 倍）で宇宙空間を移動し、ハスターの眷属であるとされています。蜂蜜酒を好むため、儀式に蜂蜜酒をささげることが多いです。

当作品では「黄色の印の親子団」が登場しますが、「黄色の印の兄弟団」をもとにしたオリジナルです。以下の黄色の印の親子団で語られるのは基本的にオリジナルですが、「黄色の印」を所有している点は共通しています。

黄色の印の親子団

ハスターを信仰する教団です。「黄色の印」というハスターの力のこもったお守りを肌身離さず持っていることから、この名前が付けました。

教団は「ラマ」と呼ばれる家系が率いており、ここ 100 年はキャロルの先祖がラマを担っていました。カラクサウラ市に本拠地があります。

ハスターを招来・解放が最終目的でした。教団はその呪文が書かれた石板も所有していましたが、碑文は古代アコール語で書かれており、解読できていませんでした。

伝わっていたのはアルデバラン祭の「アルデバランが上る晩に」「V字状に並べた 9 つのモノリスの中で」儀式を行うことです。

190 年 11 月 29 日、アルデバラン祭の最中、何者かに襲撃されました。幸か不幸か、その場にいなかったキャロルが唯一の生き残りとなりました。その後もキャロルは、毎年 11 月末になるとカラクサウラ市へ帰り、一人でアルデバラン祭を開いていました。

黄色の印の親子団は、「黄色の印」と呼ばれるお守りを所持しています。これを見た人間はハスターを信仰し、招来・解放の儀式に積極的になります。黄色の印というと、3 つの「？」が放射状に並べられた絵柄が有名ですが、今回、「反転した松明」を新たにデザインしました。

以下はゲームプレイ上、まったく重要ではない、作者の妄想ですが、ロールプレイの参考にしてください。

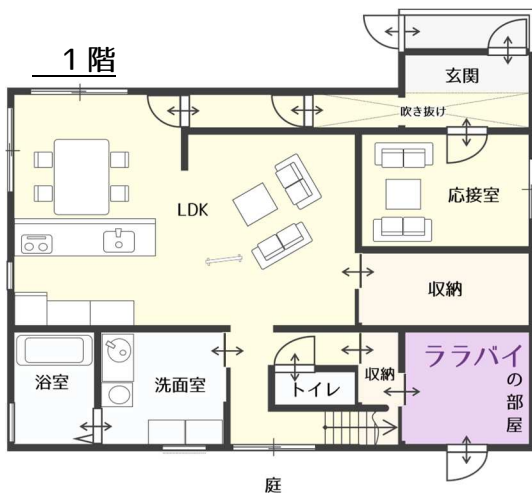
教団員は 9 歳時に「誓約」を行い、葬儀は「^{ほうそう}蜂葬」を行います。

誓約は成人の通過儀礼です。誓約を交わすには、裸でハルモニア湖に潜り、ハスター様への恒久の忠誠を誓う呪文を唱えます。誓約を交わした人間には金運上昇、恋愛成就、無病息災といったご加護があります。中でも最大のご加護とされているのは、ビヤーキーに姿を変える「^{じじゅうほうしん}自受用蜂身」です。自受用蜂身は毎年約 50 分の 1 の確率で発生し、誰かに訪れると教団を挙げてお祝いをします。

蜂葬は、死体を蜂葬台^{ほうそうだい}に運び蜂蜜酒をささげます。一晚中ハスターをたたえる呪文を唱えると、ビャーキーが魂をハスターのもとへ運ぶとされています。アルデバランまでかかる日数（アルデバランまで 67 光年）から、死者の魂は 49 日間宇宙空間を旅するとされています。死者の魂は 12 年で宇宙の真理たるハスターとひとつとなります。

隠れ家

ウラミワ市にある夏音の隠れ家です。2階建ての一軒家に見えますが、3階建てです。
あなたは幹部なので、隠し扉の向こう側を知っています。

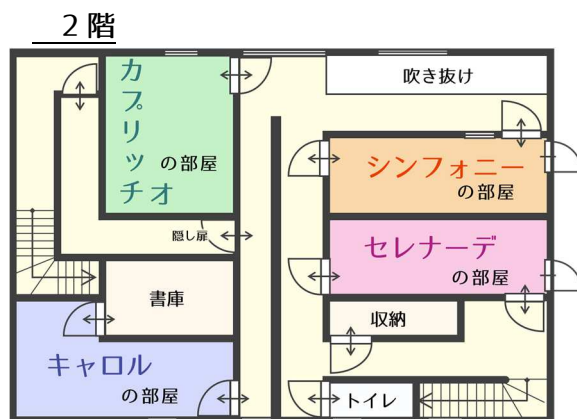


1階にはララバイの部屋のほか、会議に使われるリビング・ダイニングがあります。

吹き抜けは道具なしに登れそうにはありません。

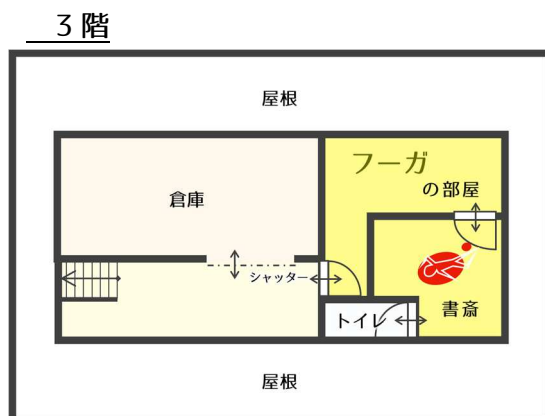
小さい方の収納は、出入りに不便なので空っぽです。

図には書かれていませんが、庭側に車庫もあります。



2階にはシンフォニー・セレナーデ・キャロル・カプリッチオの部屋があります。

隠し扉は、シンフォニー・ララバイ・キャロル・カプリッチオの幹部しか知りません。しかし殺人事件の調査のために、セレナーデも立ち入りがゆるされました。



フーガの死体は3階のフーガの『書斎』で発見されました。(赤地に白の人型)

PCの部屋にはすべて鍵がかかります。外から開けるには、部屋の鍵を持っている必要があります。

A4 一枚でわかる時系列

1??/??/??	キャロルが生まれる。
190/11/30	黄色の印の親子団が襲われる。 <u>キャロル</u> 以外死亡。
196/04	<u>キャロル</u> が <u>ロンド</u> の研究室に入る。
197/04	夏音設立。すべての超高層ビルが完成。
07	<u>ララバイ</u> 加入。
199/07	経済不安。
200/03	<u>アリア</u> が夏音を脱退。
201/05	脱退したメンバーとの接触が禁止される。
12/01	夏音が「メディアで洗脳されてしまう」と主張する。
202 年 11 月	
29 日 17:00	隠れ家に到着。
22:15	<u>シンフォニー</u> が外出。
22:30	アルデバランを見るために <u>キャロル</u> が外出。
30 日 00:00	死体の死亡推定時刻(切り札の情報)
01:30	隠れ家に戻る。 <u>シンフォニー</u> と <u>カプリッチオ</u> がいた。
01:45	<u>カプリッチオ</u> と、 <u>カプリッチオ</u> の部屋の前で会話。
01:55	<u>フーガ</u> が具合悪そうに 1 階階段の方から隠し扉へ。
01:57	<u>シンフォニー</u> が <u>シンフォニー</u> の部屋から 1 階へ。
02:30	<u>カプリッチオ</u> との会話を終え、部屋に戻った。
03:00	歌を歌う。
04:00	3 階で <u>死体</u> 発見。金庫の鍵は見つからず代わりにフーガのスマートフォンを持ち帰る。
06:45	死体発見。ゲーム開始。